

元気フェスタ Part V

目的

本活動の目的は、看護学科2年生の科目である「家族援助論」において、地域特性、家族支援の具体的方法、健康教育の方法を学んだ上で、地域のなかで健康の保持増進に関する家族支援の実際を企画・準備・実践してみることによって、学生自身のヘルスリテラシーと地域活動意識の向上を目指すことである。また、地域の多様な形態がある家族に対する、学生による様々な教材を用いた健康教育等により、地域住民のヘルスリテラシー向上を目指すことである。

<メンバー>

看護学科：古川照美、谷川涼子、
看護学科2年生のみなさん
弘前大学：増田貴人
帝京大学：生島美和

方法

看護学科の学生が、前期の「健康教育論」で学んだ健康教育の方法論や企画、指導案の内容をもとに、家族の機能、家族の構造、障がいのある子どもと家族看護、地域で育児をするということなどを学び、家族支援を意識して、「喫煙」、「睡眠」、「減塩」、「口の健康」、「運動」、「認知症」、「子育て」をテーマに動画を作成した。

結果・考察

各グループで動画作成をし、テーマごとのプログラムを作成した。17件の動画がアップロードされた。限定公開形式で、4つの自治体、2つの団体および教職員にお知らせし、視聴を促した。限定公開期間中、学生の視聴も含め、534件のアンケートの回答があった。動画のわかりやすさ、内容の有益さ、家族の健康支援につながる点、情報量、飽きずに見ることができたか、資料や教材の工夫、表情・声・姿勢、誰かに紹介したい内容か、などの評価項目について、「とてもそう思う」または「そう思う」との回答で、高評価を得ていた。限られた時間の中での動画作成であり、期間が短い限定公開であったが、視聴数も多く、アンケートの内容からも有益さが伺われた。

学生による健康教育に関する動画の作成・配信は、学生自身のヘルスリテラシーの向上、および視聴者の健康増進や家族の健康支援につながる可能性が示唆され、ヘルスリテラシー向上活動として成果があったと考えられる。